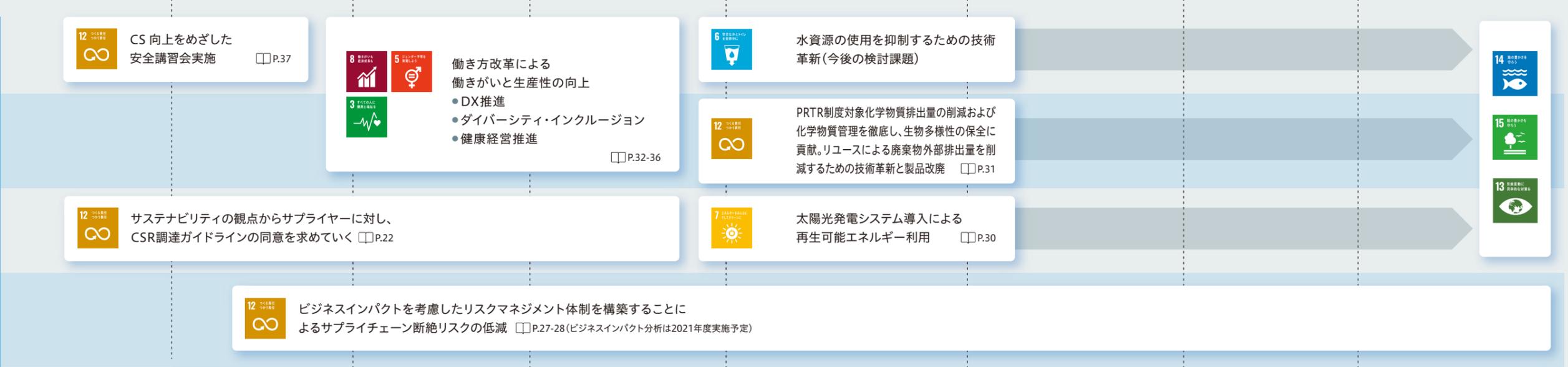
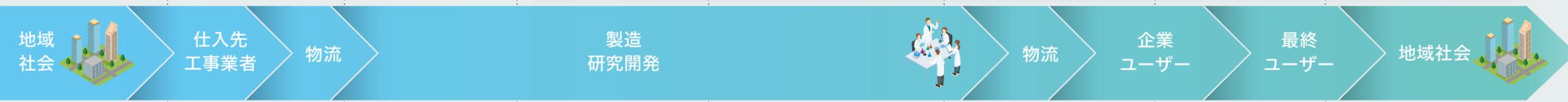




事業を通じたSDGsへの貢献 バリューチェーンにおけるSDGsマッピング

大阪有機化学工業の主要製品が、SDGsの17目標のどこに貢献しているかを、SDGコンパスのバリューチェーンマッピングを用いて検討し、大阪有機化学工業が優先的に取り組むべきSDGsの特定を進めています。

正の影響の強化



負の影響の最小化



事業を通じたSDGsへの貢献 未来へのチャレンジ – SDGsへの貢献 –

大阪有機化学工業グループでは、サプライチェーン全体の中で「強み」を生かして存在価値を発揮することで、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らの持続的成長を実現したいと考えています。

01 半導体用原料

半導体原料の製造工程では、重油より電力の消費エネルギーが多く、半導体市場の成長性を考えると当社の事業構成割合が今後大きくなり、電化が進むと予想されます。

電化が進むことで、CO₂削減施策による効果が出やすくなります。また微細化が進むことで、小さなICチップで大容量の処理が可能となり、川下製品はもとより、最終製品エネルギーの消費量を大幅に削減することができます。



02 UVインクジェット用原料

印刷方式の中で、近年注目されているUVインクジェット印刷。UV(紫外線)で乾燥させるため、光化学スモッグの原因であるVOC(有機溶剤)の蒸発がなく、熱による乾燥ではないため、エネルギーを大幅に削減できます。また印刷に製版が不要で、インクを無駄なく使用することができるため、非常に環境にやさしい原料です。

松やトウモロコシの芯、アブラヤシの種などの天然由来の植物を原料としています。



松の樹脂を採取し、生松脂にします。



トウモロコシの芯の搾りかすが加水分解などの工程を経て石油由来ではない有機化合物になります。

03 表示用材料

UV(紫外線)硬化樹脂はその特徴から、あらゆる産業で使用されています。特に近年では、環境に配慮した塗料が求められており、UV(紫外線)塗料は溶剤を使用せずに塗布することが可能なことから、低公害、省資源、省エネルギーの塗料と言われ、当社および企業ユーザーでは、液晶、半導体といった電子材料分野を中心に、幅広い製品の製造工程でUV硬化技術が使われております。

04 化粧品原料

化粧品に広く使用されている防腐剤成分は、近年アレルギーの原因とも言われ、世界的に化粧品への使用が抑制される動きがあります。当社は代替品として、においが少なく、保湿や抗菌効果があり、パラベンフリーの機能性材料を提供しています。



一例ですが、生松脂を蒸留して、精油を抽出します。

05 バイオマス(植物由来)アクリレート



脱炭素社会実現に向け、バイオマス(植物由来)原料が注目されています。当社は、量産品、開発品(各5製品)を有しております。今後もバイオマス由来の炭素比率の高い製品の研究開発を進め、ラインナップを増やしていくことで、脱炭素社会実現に貢献していきます。



この精油が多く含まれる原料を使って、当社独自の技術(エステル化、重合防止技術)により製品化しております。

07 自動車塗料用原料

一般的な自動車の塗装は、ボディ全体が収まる大掛かりな塗装ブースの中で空調により熱を加え、塗布した塗料を乾燥・硬化させる工程があり、この時大きなエネルギーを消費します。一方、当社の原料を使用したウレタン塗料は、塗料に反応性の高い材料を使用することで、塗料を硬化させる温度を下げることで、消費エネルギーの低減につながり、CO₂削減に貢献しています。

06 伸縮性エラストマー/ 伸縮性導電材料

スポーツ、医療などの分野において、日常生活における健康管理に対する社会ニーズの高まりから、生体情報を常時センシング(感知)する技術の開発が進んでいます。当社では、これからの時代における健康管理に役立つ伸縮性エラストマーや導電材料の開発を行っています。今後、生体センサや感圧センサ、ストレッチャブルデバイスなどの実用化に役立たいと考えています。

